



山形県青年の家より隔月発行でお知らせしています



R2. 8・9月号

発行日 令和2年10月1日
発行 山形県青年の家
〒994-0032
天童市小路一丁目7-8
TEL 023(654)4545
FAX 023(652)2007

新型コロナウイルスに負けるな！

青少年ボランティア活動も再始動し始めています！！

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う本所の対応 第3報

- 7月末より本所の主催事業を再開する運びとなりました。山形県青年の家では新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、6月2日（火）より館内泊の利用を部分的に再開しました。また、社会体育（体育館利用）についても、6月19日（金）から利用を再開し、7月以降は平常時の利用状況と変わらないほど、利用団体数は回復しています。利用者の皆様には「新しい生活様式」に対応した利用をお願いすることになります。皆が安心して利用できるように御協力よろしくお願いたします。なお、8月以降の主催事業については、通常通りに実施する予定です。
- 8・9月に実施予定であった以下の事業・会議は、中止または延期になりました。
 - 7月18日（土）～ 夏の体験ボランティア（～9/22） → 中止
 - 9月30日（水） わいわいカフェ① → 延期（10月中に開催予定）



家庭教育支援研修会①「コミュニケーションスキルとスラックライン体験」



- 梅雨が明けた8月2日（日）に絶好の快晴のもと、本所主催事業である家庭教育支援研修会①「コミュニケーションスキルとスラックライン体験」を開催しました。この事業は本来7月4日に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために約1か月延期となりました。また、参加申込多数につき、早々に締め切りを行わなければならず、今回は21名（小学校低学年の親子8組）での開講となりました。なお、感染拡大防止のため、着席間隔に身体的距離を設けたり、器具の配置が密にならないようにするなど、対策を講じた上で行いました。前半は講師の佐藤節子先生（山形県スクールカウンセラー・山形県子育てアドバイザー）から、「コミュニケーションゲームで仲良く」と題した講義をしていただきました。「数合わせ」・「あいこじゃんけん」・「質問じゃんけん」・「気持ちをあてよう」・「間違い探し」などのゲームを親子で行いました。和やかな雰囲気の中でゲームが進み、最後の方では親子間のコミュニケーションスキルが向上していました。特に「間違い探し」ゲームでは、親子両方とも真剣になり、机の上にある絵と会場前方に掲示してある絵を見比べて、絵の違いについて親子間の会話が弾み、最大で9個（10個中）も見つけた親子もいました。

後半は講師の井上祐先生（山形県立東桜学館高等学校教諭・（一社）日本スラックライン連盟C級インストラクター）から「スラックライン体験」を指導していただきました。保健体育の先生の専門的な見地から、身体のウォーミングアップに始まり、ライン上での基本技能を体験しました。子どもの適応能力は非常に高いものがあり、すぐにライン上で立ったり、歩いたりすることができていました。保護者の皆さんはおっかなびっくりのスラックライン体験でしたが、子どもとの体験活動を満喫されていました。



【次回予告】

家庭教育支援研修会②「食育学習とスラックライン体験」11/28（土）開催予定です！

※スラックライン

2.5～5 cm幅の帯状のテープの上でバランスを取り楽しむスポーツ。スラックラインは1960年代のアメリカ・ヨセミテで、クライマーが悪天候で山に登れない日にロープを樹木の間にかけて遊び始めたのが始まりとされる。



青年の家体験講座②「ボランティア実技研修会」



■ ボランティアに携わる青少年等にボランティアに対する理解を深め、活動に役立つ技術を習得し、新たな活動分野について考えることを目的とする講座を、9月5日（土）に山形県青年の家で開催しました。県内各所属団体から16名（うち東桜学館、高畠、山辺、南陽高校から高校生12名）が参加し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、リモートで講演・実技や演習を行う新しい形式に挑戦してみました。

午前の部は、講師の有馬正史氏（NPO法人さわやか青少年センター理事長）から、「ボランティアとは～山形方式への思い～」と題して、東京とリモートで結ぶオンライン講演会を行いました。有馬氏からはボランティアが「生きる力」と密接に関わり合い、「非認知能力」や「人間力」の醸成に大きく関与することを力説していました。また、山形方式の地域に根ざしたボランティア活動の素晴らしさに感銘を受けたこともお話しいただきました。

午後の部は、講師の海老名智美氏（山形県立山辺高等学校福祉科実習教諭）から「高齢者とのコミュニケーション力を学ぶ」というテーマに沿って、高齢者との様々なコミュニケーション方法をグループに分かれて考えました。その後、高齢者福祉施設とリモートで結び、グループごとにオンラインで高齢者と交流し、先ほど考えたコミュニケーション方法（「じゃんけん体操」・「伝言ゲーム」・「動物鳴きまねゲーム」など）を実際に試しました。声のトーンや雰囲気、高齢者の身体的衰えなどを考慮に入れながら、高齢者との交流を楽しむことができました。



今回の講座はコロナ禍の中で新たな研修の形式を試みましたが、リモートによる遠隔地との新たな交流を作り出すことができました。ご協力を頂いた医療法人社団緑愛会友結の皆さま、本当にありがとうございました。

地域と学校の防災力を高める研修会



■ 大規模災害発生時にそれぞれの立場で避難所運営に携わることを想定し、避難所運営の図上訓練を行う研修会を9月26日（土）に行いました。新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、全てオンラインでワークショップを行う実験的な取り組みとなりました。特定NPO法人日本ファシリテーション協会中部支部のみなさんを講師に招き、県内はもとより、北は岩手県、南は沖縄県から参加した31名がオンライン会議上に姿を現し、静岡県が開発した避難所運営ゲーム（HUG）を、参加者がオンライン上で行いました。6つのグループに分かれてスプレッドシートを共有しながら、ファシリテーターの方を中心に、次々と現れる避難者（カード）の条件を踏まえ、皆で知恵を出し合いながら学校のどの部屋に避難させるかを決めていきました。コロナ禍という複合的な条件も相まって、話し合いはどのグループも難航していました。ゲームの合間には、岩手県と宮城県から参加された方から、東日本大震災の際の避難所運営についてのお話もあり、現実感を掴むことができました。技術面も含めて、特定NPO法人日本ファシリテーション協会中部支部の皆さまには、大変お世話になりました。



あの頃の“青年”は？

■ 10年毎に本所の所報を振り返り、当時の様子に思いを馳せてみたいと思います。今回は20年前の2000（平成12）年（ミレニアムと呼ばれた年）の所報（青年の家所報NO.160～161）を振り返ります。

① 現代青年ホップステップ講座Ⅱ

2種類のニュースポーツ（パラグライディング・ストリートダンス）体験とアウトドアクッキング体験を通して、県内外の青年層の仲間づくりに大きく寄与しました。

② やまがた

グローバルセミナー

外国人による新しい形の講演会ショーが催され、ドイツの若者とのディスカッションでは、活発な意見交換がなされ、国際交流や異文化理解のきっかけとなりました。

青年の家



8・9月の利用団体

【宿泊利用】

- ・山形大学工学部国際交流センター
- ・西小けやきバレーボールスポーツ少年団

【日帰り利用】

- ・Kバド（バドミントン）
- ・KBC（バドミントン）
- ・TOP（バドミントン）
- ・天童高校バドミントン部
- ・西崎クラブ（バレーボール）



- ・バスケットボールスクール ハーツ
- ・S・フリー（バスケボール）
- ・天童市立舞鶴保育園
- ・放課後等デイサービス事業所「つぼみ」
- ・㈱山形ビルサービス
- ・ローターアクト
- ・山形県青年の家「コミュニケーションズ&ストラックライン体験」「ボランティア実技研修会」「地域と学校の防災力を高める研修会」



今後の主催事業

【10月】

- 10/14(水) わいわいカフェ①
- 10/24(土) 青年の家体験講座②「スポーツ GOMI 拾い」

【11月】

- 11/28(土) 家庭教育支援研修会②「食育学習とストラックライン体験」